

葬祭業者名	D社
調査日	2018年2月7日

花祭壇の開始時期と近況

花祭壇の開始時期	昭和40年頃から
花祭壇の種類	決まっていない（利用者の要望次第）
花祭壇の利用者数	年間480組
花祭壇と白木祭壇の割合	花祭壇：白木祭壇 = 9：1
花祭壇は、家族葬と一般葬どちらが多いか	同程度に花祭壇が多い

- ✓ 昭和40年頃に造花（仏具関係としての使用）から生花の使用に徐々に転換しました。
- ✓ 生花祭壇は、他社との差別化を図るための新しい取り組みとして始めたものです。
- ✓ 当社の会場は、生花に合わせた造りとしており、洋風の会場としています。このため、当社で行われる葬儀の9割9分は生花祭壇です。なお、ほかの会館やお寺で葬儀を行う場合や、遺族の意向によっては、白木祭壇にて執り行う場合もあります。

近年の花祭壇の傾向

- ✓ 生花の場合、コストが大変ですが、造花は使いません。全て生花を使用して、できるだけご家族の要望にお応えするようにしているため、喜んでいただけることがほとんどです。
- ✓ ご家族の要望は多様であり、規模や経費など幅広い種類の要望をもらいます。
- ✓ 花祭壇の価格帯は、20万円～500万円としており、小さくてもこだわりのある葬儀から、大きく見栄えのする葬儀までのニーズに対応しています。故人や故人の愛用品からのイメージを大切に、最後の舞台を演出しています。

花祭壇で用いる花について

主に使用する花（色）	キク（白）、ユリ（白、赤、黄）、カーネーション（白、ピンク）、トルコギキョウ（全色）、コチョウラン
使用する花の長さ	50～100cm（基本長は70cm）
使用する花の形状	茎と花がまっすぐになっているもの
好まれる花	カーネーション、ユリなど
好まれる色	白、ピンク、藤
使用する花の産地	全て愛知県渥美半島産
産地の割合	国産：輸入 = 10：0
仕入れの方法	グループ会社の花屋を通じて花き市場から調達
標準的な花祭壇で使う花の量	12～15種類
標準的な花祭壇で使う花の本数	約100本
使用する花に求めるもので、特に重視するもの	品質

花祭壇作りについて

作り方のポイント

- ✓ 故人様の最後の舞台を演出したい、という思いから、故人様やご遺族の好みの配色やイメージなどの要望を最優先します。そのほか、釣り具やゴルフ用品といった愛用品からイメージして花祭壇を作ります。
- ✓ 基本的に上記のような愛用品を祭壇に置くため、愛用品を中心に花祭壇全体のイメージや、色のバランスを考えて花祭壇を作ります。
- ✓ 花祭壇は、白木祭壇と比較して幅広いニーズに対応することができる点が大きなメリットであり、毎回違う祭壇が出来上がります。
- ✓ 花祭壇の作り方は、業界の講習会や、先進地視察などによりアイデアを得ているほか、花屋で修行して戻る職員もいます。こうして得られた技術は、先輩職員が後輩職員に伝えられています。

使う花について

- ✓ 品質の良い花は、日持ちも色もよいため、一番に品質を重視します。
- ✓ 要望が少ない場合には、男性ならば白い花をメインにすっきりとしたイメージにしたり、女性ならば赤色や黄色を使って明るくしたイメージに仕上げている。季節に応じて、ヒマワリやアジサイなどを一部で使うなどしています。
- ✓ バラは、仏式以外であれば普通に使いますが、仏式の場合はお寺さんへの評判を考えて使わないことにしています。

使う花の産地について

- ✓ グループ会社の生花店に生花の調達を任せています。当社は国産にこだわっているわけではないですが、提供される花は全て国産です。